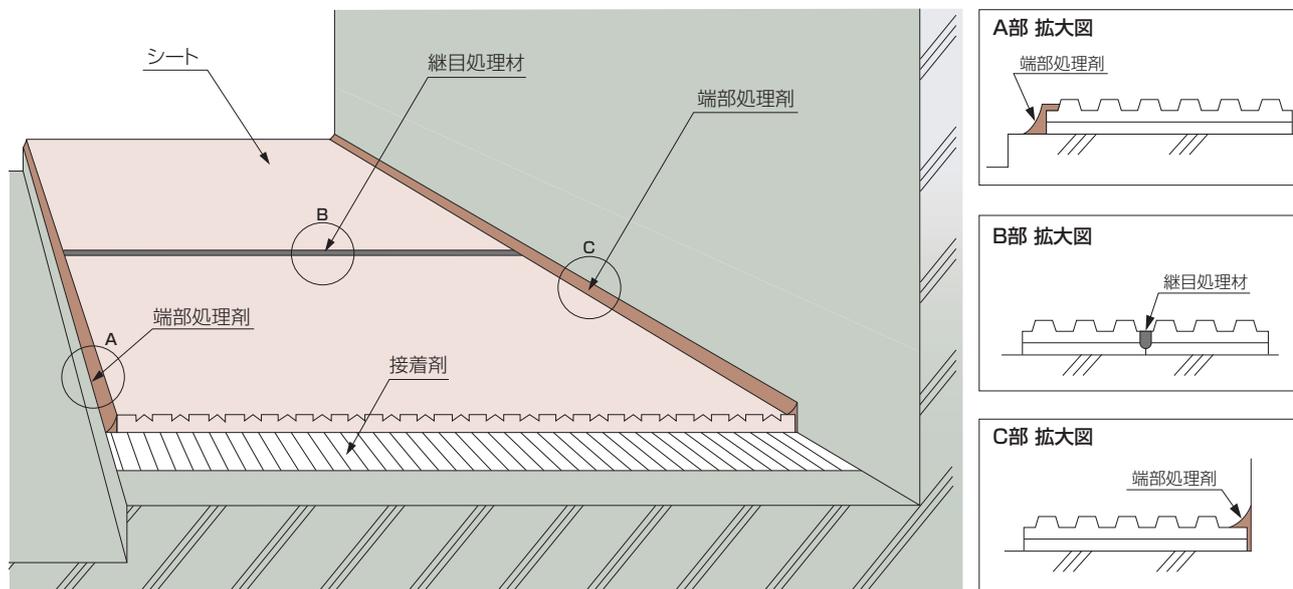


工 法

タキロンシーアイの床材製品は、過酷な屋外での使用にも耐えるすぐれた耐久性を持っています。タキロンシーアイでは、この特長を最大限に生かす優れた専用接着剤、副資材、工法を開発。独自の工法を確立し、数多くの実績をもっています。

標準納まり図



※標準納まり図は一例であり、実際の納まりとは異なる場合があります。

工 法	用 途	接着剤	継目処理材	端部処理材
一般工法	屋内など水を使用しない場所など	タキボンド#607 タキボンド#701	床溶接棒 タキシール#600	タキシール#600
耐水工法	直接雨がかりのない場所・湿気の恐れのある場所など	タキボンド#607 タキボンド#701	床溶接棒 タキシール#600 エポシール	タキシール#600 エポシール
特殊耐水工法	雨がかりがある場所・水を大量に使用する場所など	タキボンド#607 タキボンド#601 タキボンド#701	床溶接棒 エポシール	タキシール#600 エポシール
プールサイド工法	プールサイドなど特に大量に水を使用する場所など	タキボンド#601	床溶接棒 エポシール	エポシール
耐動荷重工法	耐動荷重性が求められる場所など	タキボンド#601	床溶接棒	エポシール

継目処理

溶接工法

床材の継目部は隙間なく仕上げ、U字型に溝を切り、タキストロン床溶接棒を熱風溶接機を用い、溶融しながら断面を熱風溶接します。

端部処理

シール工法

排水溝、壁際などの端部からの水の浸入を防止し、床材のめくれ、剥がれを防ぐために、耐水性にすぐれたタキシール#600・エポシールなどで端部処理を行います。

試験データ
P.175

法規関連
P.199

工法・下地
P.209

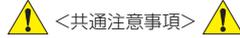
施工手順
P.227

接着剤・
副資材
P.281

副資材
品番一覧
P.293

メンテナンス
注意
P.297

工 法



<共通注意事項>

- 記載内容以外の工法での施工トラブルは、原因説明ができませんのでご相談には応じられません。
- 下地の種類によっては本来の接着強度が発揮できない場合がありますので、営業担当者にお問い合わせください。(事前の接着テストをおすすめいたします。)
- 下地が塗膜防水材や塗り床などの場合は、種類によって副資材の選定が異なりますので、営業担当者にお問い合わせください。
- 鋼板製の下地については十分な防錆処理(ケレン・錆止め・上塗り)を施してください。
- ステップと同梱しているタキボンド#650は凹凸の少ない標準的な下地を想定した数量を付属しています。不足する場合は別売品を追加購入してください。
- 5℃以下では施工できません。(接着剤や端部処理材が硬化しないため。また、両面テープの初期粘着力が低下するため。)

タキストロンNA・RA・FH・HA・QA・BA・FA・SA・PRENTO・MR・WB・LX・LB・プラスケアPGE

マンション用

スロープ専用シートSL

廊下・踊り場用シートRA・SA・TW・MR

→施工手順
P.229

→施工手順
P.231

→施工手順
P.251

- 養生(2~3日)が可能な場合は継目にタキシール#600を使用することも可能です。
- 完全屋外の吸水性下地にタキシール#600を使用する場合は、必ずプライマー タキボンド#625(別売品)で前処理を行ってください。
- 廊下や踊り場などにタキストロンプラスケアを使用する場合、階段の最上段はプラスケア専用のコネクタステップをご使用ください。

工法	用途	下地	接着剤	継目処理材	端部処理材
耐水工法	開放廊下・ベランダなどの 直接雨がかりのない場所	吸水性下地 非吸水性下地	タキボンド #607-701	床溶接棒 タキシール#600	タキシール#600
特殊耐水工法	屋根のない開放廊下・ 屋上・ルーフバルコニー などの完全屋外	非吸水性下地 (全面塗膜防水下地など)	タキボンド #607-601-701	床溶接棒 タキシール#600	タキシール#600
		吸水性下地 (モルタル下地など)	タキボンド #601	床溶接棒 タキシール#600	タキシール#600 +タキボンド#625

上記シート(SL・プラスケアPGE以外) + ナイスレイシート(NL-030)

→施工手順
P.259

工法	用途	下地	接着剤	継目処理材	端部処理材
耐水工法	開放廊下・ベランダなどの 直接雨がかりのない場所	吸水性下地 非吸水性下地	タキボンド #607-701	床溶接棒 タキシール#600	タキシール#600
特殊耐水工法	屋根のない開放廊下・ 屋上・ルーフバルコニー などの完全屋外	非吸水性下地 (全面塗膜防水下地など)	タキボンド #607-601-701	タキシール#600	タキシール#600
		吸水性下地 (モルタル下地など)	タキボンド #601	タキシール#600	タキシール#600 +タキボンド#625

上記シート(SL・プラスケアPGE以外) + ナイスレイシート45(NF-050)

→施工手順
P.259

工法	用途	下地	接着剤	継目処理材	端部処理材
耐水工法	開放廊下・ベランダなどの 直接雨がかりのない場所	吸水性下地 非吸水性下地	タキボンド #607-701	タキシール#600	タキシール#600
特殊耐水工法	屋根のない開放廊下・ 屋上・ルーフバルコニー などの完全屋外	非吸水性下地 (全面塗膜防水下地など)	タキボンド #607-601-701	タキシール#600	タキシール#600
		吸水性下地 (モルタル下地など)	タキボンド #601	タキシール#600	タキシール#600 +タキボンド#625

ナイスレイシート(NL-030) 使用不可一覧

- タキストロン プラスケア PGE-MG-CG
- タキストロン スロープ専用シート(SL)
- タキステップ3S-5W-5Y-5C-6W-6Y-6C-6WP-7F-7Y
- ルミセーフステップ3Z
- 蹴込み部分用シート(CW)
- レッツステップ(SW)
- 廊下・踊り場用シート(TR)
- テープ付き蹴込みシート(CS)
- テープ付き側溝外側シート(TG)
- 面台ガードC
- ネオガード
- L字アングル抗菌
- ジョイントシートS

ナイスレイシート45(NF-050) 使用不可一覧

- タキストロン プラスケア PGE-MG-CG
- タキストロン スロープ専用シート(SL)
- タキステップ3S-5W-5Y-5C-6W-6Y-6C-6WP-7F-7Y
- ルミセーフステップ3Z
- 蹴込み部分用シート(CW)
- レッツステップ(SW)
- 廊下・踊り場用シート(TR)
- テープ付き蹴込みシート(CS)
- テープ付き側溝外側シート(TG)
- 面台ガードC
- ネオガード
- L字アングル抗菌
- ジョイントシートS
- タキストロンMT-MX-ST-GK
- ネオセーフ抗菌20-25
- ネオクリーン
- ドレインレールL
- ドレインレールH
- ドレインレールプラス

マンション用

RAステップ6W・6C・6Y / タキステップ 5W・5C・5Y

→施工手順
P.239

工法	用途	下地	接着剤	シートとの 継目処理材	端部処理材及び、 ステップ同士の継目	段鼻隙間 充填用接着剤	プライマー
耐水 工法	雨がかりが 少ない場所	吸水性下地・ 非吸水性下地	タキボンド #607	床溶接棒 タキシール#600	タキシール#600	タキボンド#650 (付属品)	タキボンド#625

- 鋼板下地に施工する場合は、プライマー タキボンド#625(別売品)を購入してください。(#650を段鼻に接着させるため)
- 養生(2~3日)が可能な場合は継目にタキシール#600を使用することも可能です。
- モルタル充填型の鉄骨階段には、ベンチレイシートを用いた通気緩衝工法を行ってください。
- タキボンド#701は使用出来ません。(平場専用で巻き上げ施工が出来ないため)
- ナイスレイシート(NL-030)、ナイスレイシート45(NF-050)との二重張りが出来ません。

試験データ
P.175

法規関連
P.199

工法・下地
P.209

施工手順
P.227

接着剤・
副資材
P.281

副資材
品番一覧
P.293

メンテナンス
注意
P.297

下地や床材の種類によって工法・専用接着剤は異なります。詳細は別紙「工法」の表でご確認ください。
(記載内容以外の工法での施工トラブルは、原因説明ができませんのでご相談には応じられません。)

◇施工の前に

- 建築基準法施行令にて、スロープの勾配は最大1/8までと規定されています。1/8を超えるスロープへの施工はやめてください。(バリアフリー新法など、建築物によって、勾配についての関係法令、基準は違います。勾配については設計者にご確認ください。)
- ナイスレイシートとの二重張りは出来ません。

1. 下地の清掃

砂・塵埃などを除去してください。

2. 割り付け

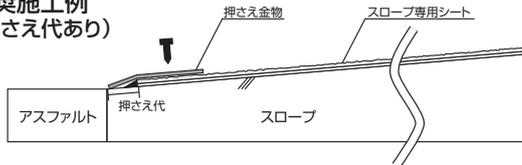
- 防滑性と排水性に特化したエンボス設計となっております。シートの方向に注意してください。**
(シート裏面の矢印の向きがスロープの上から下に向かうように施工してください。)

- できるだけ継目部を少なく、端部に小さなシートが入らないように割り付けてください。
- 端部は端部処理材の仕上げ代として排水溝端部から5mm以上、壁際は3mm程度の隙間を空けてください。
- 接着剤を端部まで塗布するため、シート端部の位置を下地に鉛筆などでけがしてください。
- ※スロープの下端部分のシートは、**押さえ代としてスロープの終点から10~15mm程度の隙間を設けてください。**押さえ金物はスロープの終点と端部を揃えてください。下図参照。(押さえ代を設けずに施工を行うと、押さえ金物が持ち上がり、シートに浮きが生じる原因になります。)

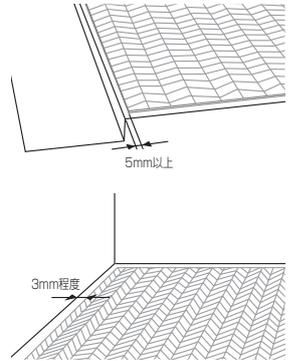
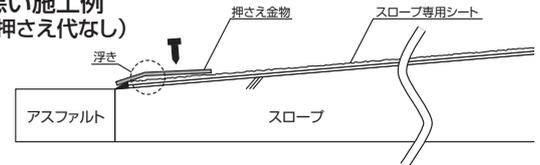
※スロープの下がアスファルトなど弱い下地の場合はその部分に金物がかからないようにお願いします。

※金物サイズ推奨例：幅35mm以上、高さ2.6mm以上、厚み1.0~2.0mm。

○推奨施工例 (押さえ代あり)

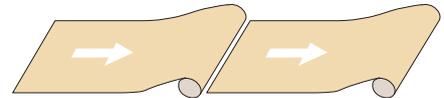


×悪い施工例 (押さえ代なし)

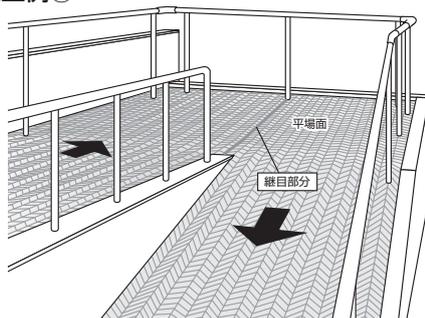


3. 仮敷き

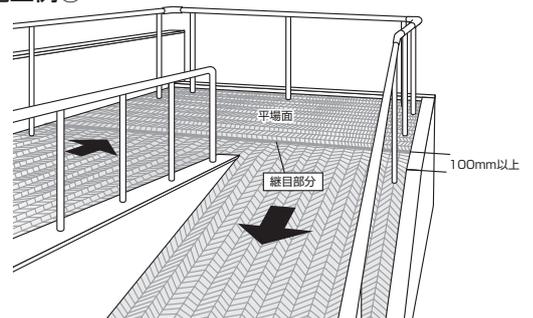
- 張り付け基準線に沿って、仮敷きを行ってください。
- シートには方向性があります。同一方向になるように施工してください。**
- 巻きグセを取り、シワが生じないように敷き延ばしてください。
- できるだけ柄合わせを行いながらシートを敷いてください。
- 二枚のシートの継目部は突き付けとし、隙間が生じないように注意してください。
- 継目は柄模様の目地部で行うのが基本です。
- 踊り場のあるスロープでは、基本的には次のような施工方法を推奨いたします。(ただし、スロープの形状によってはこの限りではありません。)



○推奨施工例①



○推奨施工例②

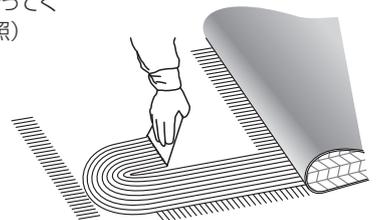


- 防滑性と排水性に特化したエンボス設計となっております。シートの方向に注意してください。**
(シート裏面の矢印の向きがスロープの上から下に向かうように施工してください。)

- 踊り場のあるスロープでのシート同士の継目処理は、平面部で行うか、押さえ金物で施工を行ってください。(平面部は接着強度確保のため100mm程度設けてください。10.継目処理手順参照)

4. 接着剤の塗布準備

- 下地に接着剤を塗布するため、タキストロンの半分(巾方向)をずれないように折り返してください。



5. 接着剤の塗布

- エポキシ系接着剤の場合、接着剤は下地上での混合は行わないで別容器で十分に攪拌してください。(下地上で混合すると混合不良となり後日のフクレ・接着不良の原因となります。)
- 下地に塗布ムラが生じないように均一に塗布してください。
- クシ山が1/3以上摩耗した場合、三角ヤスリで目立てを行ってください。

標準塗布量

モルタル下地：300~400g/m²
非吸水性下地：250~350g/m²

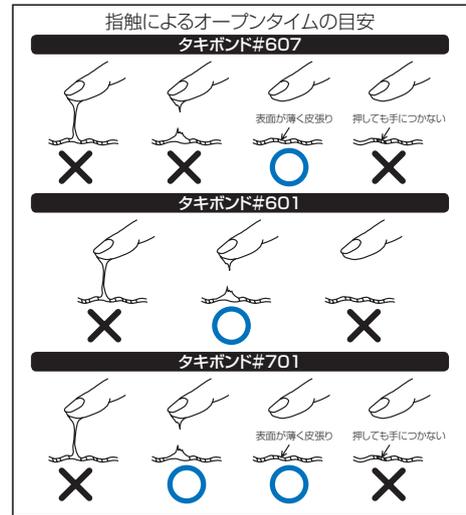
6. オープンタイム

- 接着剤を塗布した後オープンタイムを取り、張り付け可能時間内にシートを張り付けてください。
- オープンタイムが短いとガス膨れが生じます。
- **オープンタイムを取り過ぎて接着剤が乾き過ぎると、接着力が低下します。**

オープンタイムの目安(20℃)

接着剤	オープンタイム	張り付け可能時間
タキボンド#607	20～30分	40～50分
タキボンド#601	30～40分	60～70分
タキボンド#701	30～40分	50～70分

※5℃以下では使用しないでください。(硬化反応が進みません。)



7. 張り付け・エア抜

- シートにシワを生じさせないように、中央部から丁寧にシートを張り付けてください。
- シート張り付け後、しごき圧着でエア抜きを十分にを行い、床ローラーや、しごき棒などで圧着してください。

8. 壁際の裁断

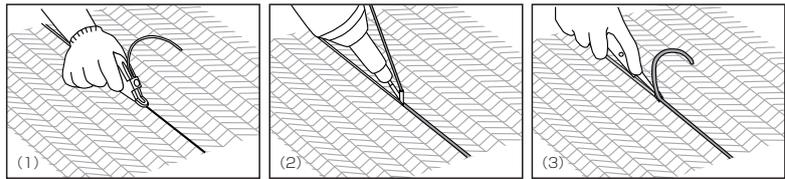
- 壁際は3mm程度の隙間が空くように裁断してください。
- 下地に防水層がある場合は、カッターナイフ等で傷を付けないように注意してください。

9. 圧着

- 壁際及び継目部をハンドローラーやコーナーローラーで十分に圧着してください。

10. 継目処理

- (1) 接着剤が完全に硬化してから溝切り機*でシート厚みの2/3の深さでU字溝を設けてください。
※推奨:ヤヨイ化学販売(株)「ユークリ・スーパー」
- (2) 熱風溶接機(ライスター)でタキストロン床溶接棒を溶融させながら、溶接ビードができる程度に溶接してください。
- (3) タキストロン床溶接棒が冷えてから、余盛部を溶接棒トリマーなどで平滑に仕上げてください。



<溶接条件の目安>

設定	アナログ	6～7
	デジタル	400～500℃
スピード	1～2m/分	

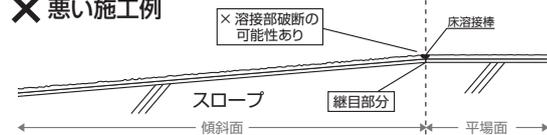
■ スロープ(傾斜面)と平場面との継目処理について

傾斜面と平場面が交わる部分での継目処理は行わないで下さい。(溶接部が破断する可能性があります。)
必ず、平場面で継目処理仕上げを行ってください。

※平場面での接着面は100mm以上確保してください。

※傾斜面と平場面が交わる場所で継目処理を行わなければいけない場合は押さえ金物を使用してください。

✗ 悪い施工例



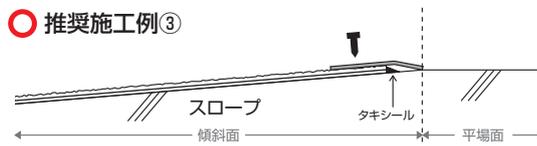
○ 推奨施工例①



○ 推奨施工例②



○ 推奨施工例③



11. 端部処理

- タキストロンの全周にマスキングテープ養生し、タキシール#600の中が5mm以上になるように仕上げ用ヘラなどで端部処理を行ってください。
- マスキングテープは仕上げ後直ちに取除いてください。

施工副資材 標準使用量

	タキシール#600
タキストロン/SL	20m/本

12. 清掃

- シート残材・接着剤容器・梱包紙などを片付けてください。
- カッターナイフの折れ刃の回収を徹底してください。

13. 養生

- 施工中及び接着剤が硬化するまでは、暖房などの急激な温度変化を与えないでください。
- 端部処理材が硬化するまで踏まないでください。(2～3日以上)
- 土足での歩行を控え、養生シートを敷いて汚さないようにしてください。
- 重量物の運搬などは、接着剤硬化後(1～2日)、ベニヤ板などを敷いて車輪の跡形や傷を付けないように行ってください。

試験データ
P.175

法規関連
P.199

工法・下地
P.209

施工手順
P.227

接着剤・副資材
P.281

副資材
品番一覧
P.293

メンテナンス
注意
P.297